



# 東っ子便り

令和4年5月16日

第3号

大津町立大津東小学校  
校長 太田黒 保宏

## “児童集会”をしました！



5月13日に、感染防止対策（マスク着用、換気、前後左右2メートル間隔）を取って、体育館で実施しました。各委員会の委員長と副委員長から、年間目標を発表した後、それを聞いた児童から感想（お返し）がありました。“他人事ではなく、自分がしていく”という強い意志とともに、お互いに認め合い、高め合っていく姿が見られ、とても感動しました。今後の実践が楽しみです。

### 【年間目標】

#### 1 環境・美化・掲示委員会

- ①みんなで節電・節水を心がけましょう。
- ②うさぎ小屋の掃除をがんばります。

#### 2 図書委員会

- ①おすすめの本の紹介をします。みなさん、たくさん本を読みましょう。

#### 3 保健・給食・放送委員会

- ①みんなでコロナ対策を徹底しましょう。
- ②さわやかな放送を心がけます。

#### 4 企画・体育委員会

- ①気持ちを伝えて笑顔になれる学校にしましょう。
- ②みんなが運動を楽しめる学校にしましょう。

### 【感想】“お返し”の一部を紹介します。

- ・環境を良くすることはいいことだと思います。
- ・僕も、コロナ対策をがんばります。
- ・節水や節電に気をつけます。 など



東小45人、みんなで  
がんばりましょう！



## 歯は健康の源！定期的な歯科の受診を！

4月のPTA総会の際に、子どもが「歯が痛い」、「黒板の文字が見えない」、「耳が聞こえづらい」等言った時には、すぐに歯科等を受診いただくようお願いいたしました。

次の表は、5月の歯科検診における未処置の虫歯保有率を、全国と比較したものです。

	未処置の虫歯保有率
R2 全国平均	19.6%
R3 東小平均	54.2%
R4 東小平均	51.2% (5/13 検査分まで)

(R3) 本校の“治療率”  
は、約73%でした。早期  
治療が最も大切です！



表からわかるように、歯の健康は本校の課題の一つです。虫歯になると、「イライラしやすい」、「集中力が落ちる」等の傾向が見られ、学習意欲や学力にも影響する可能性があります。また、虫歯の影響で、グッと食いしばれないと運動でもうまく能力を発揮できない可能性もあります。子どもにとって、良いことは一つもありません。これから大切なのは、虫歯の治療をすることです。子どもの健康のために、ご理解、ご協力願います。

なお、子どもたちの歯科検診の結果については、今週中に各家庭へお知らせします。

## 愛校作業で、学習環境が整いました！大変お世話になりました！

5月15日（日）愛校作業をしました。児童、教職員、保護者そして地域のボランティアの方々のおかげで、とてもきれいな学習環境が整いました。朝7時から8時までの1時間はあっという間でしたが、事故もケガもなくできてよかったです。大変お世話になりました。

PTA30家庭は、100%参加でした。とても凄いことです！



運動場に集合



運動場の草取り



学級園の草取り

### ちょっと、紹介！

学校の芋畑の整備を荒牧さんに、運動場の丸太の撤去を内村さんにご協力いただきました。たいへんありがとうございました。



芋畑の整備



丸太の撤去

## “情報集約担当者”とは？

令和2年11月に熊本県いじめ防止基本方針が改定されたことに伴い、各学校には“情報集約担当者”を置くこととなっています。情報集約担当者とは、学校において“いじめ”に関する情報の集約等を第一に掌握する担当者のことです。本校では、今村教頭が担当します。

いじめは、どの学校でも起こる可能性があります。しかし、本校は、人権教育を基盤に据えて、全職員でいじめを見逃さず、いじめを許さない態度で指導してまいります。

保護者の皆様には、子どもたちの様子等で、気になることがございましたら担任へすぐにご連絡ください。担任は今村教頭に報告し、学校としてすぐに対応いたします。



## できた時に大いに褒める！

「日本の子どもの自尊感情はなぜ低いのか」古荘純一著（光文社新書）の一節です。

「子どもたちは、基本的に大人からの評価を得ようと努力しています。しかし、その子その子の出来具合もありませんし、個性もあります。大人の尺度で批判したり、他の子どもと比較したりすることは、子どもたちが自信をなくすことにつながります。我々は子どもの運動会で、「がんばれ！がんばれ！」、あるいは、「はしれ、はしれ」などと応援しがちですが、言われるまでもなく子どもたちはがんばっているし、一生懸命に走っているのです。「よくやった」「すごいぞ」「がんばったね」などと子どもを褒める。努力を評価するという視点、これが子どもの自尊感情を理解することにつながります。親の接し方ひとつで子どもの自尊感情は大きく変化しますから、足りないところばかりを見るのではなく、わが子のよいところを見つけて認めてあげることが大切です。」

できないことを指摘するのではなく、できたこと、できるようになってきたことに視点をおいて褒めることが効果的です。我々大人も褒められると嬉しいものです。このくらいのことができて当たり前だとは思わずに、大いに褒めましょう。

私自身も、本校職員も常に心掛けて日々の指導にあたっていきます。

